

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	大谷名生 (おおたにめい)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学部人間情報科学科 4 年
発表年月 または事業開催年月	2024 年 11 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 15 回多感覚研究会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	大谷名生, 加藤一聖, 大須理英子
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	連続した匂い刺激呈示による嗅覚順応, 嗅覚脱順応の神経基盤の探索
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【背景】嗅覚刺激の繰り返し呈示により嗅覚順応が生じ、知覚強度が相対的に低下することが知られている。また、嗅覚順応後に異なる種類の嗅覚刺激を与えることで脱順応が起こり、知覚強度が回復するが、この脱順応の発現機序は未だ明らかにされていない。さらに、脱順応が知覚レベルでどのように表象されるかについても明らかでない。【方法】健康な男女 11 名を被験者とした。統制呼吸を行い、吸息時に嗅覚刺激を呈示した。主観的嗅覚強度を VAS を用いて評価させた。【結果】主観的嗅覚強度の経時的変化として、連続した刺激呈示により主観的感覚強度の漸減がみられた。また、異なる種類の匂いによる刺激で感覚強度は回復した。</p>	

※無断転載禁止